

## 工学府

I	教育の水準	.....	教育 25-2
II	質の向上度	.....	教育 25-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目 I 教育活動の状況

#### 〔判定〕 期待される水準を上回る

#### 〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 平成 22 年度に水素エネルギーシステム専攻を設置し、水素エネルギーに関わる科学、技術を網羅した教育を行っている。
- 平成 22 年度から全専攻に外国人留学生を対象として英語のみで学位を修得できる国際コースを設置している。
- 平成 24 年度に分子システム科学センターと研究院附属アジア防災研究センター、平成 26 年度に超顕微解析研究センターを設置するなど、社会のニーズに応じた組織体制の見直しを行っている。
- 多様な教員の確保の取組として、平成 22 年度に外国人教員 6 名を雇用している。また、女性教員は平成 21 年度の 9 名から平成 27 年度の 16 名へ増加しており、平成 27 年度の外国人教員及び女性教員の割合は、それぞれ 1.1%、5.8%となっている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 高度な専門的能力及び研究能力を修得させるための「高等専門科目」、「先端科目」、「広域専門科目」、「能力開発特別スクーリング科目」、「産学連携科目」や、他専攻の科目履修を可能とする専攻間共通科目等を設置している。
- リーディングプログラム 3 件、グローバル COE プログラム、大学の世界展開力強化事業等の大型教育プロジェクトに採択されており、社会のニーズを踏まえた大学教育を展開し、リーダーとしてグローバルに活躍できる人材育成を行っている。大学の世界展開力強化事業の「地球資源工学グローバル人材養成のための学部・大学院ビルドアップ協働教育プログラム」（平成 24 年度から平成 28 年度）では、連携大学間での交流プログラム（スクールオンザムーブ）により、受入は平成 24 年度の 22 名から平成 26 年度の 30 名へ、派遣は平成 24 年度の 37 名から平成 26 年度の 50 名へそれぞれ増加している。

- 教育効果を高めるための工夫として、少人数授業、対話・討論型授業、専攻横断型教育、複数教員指導体制、各種演習や実習等を実施している。

以上の状況等及び工学府の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### 〔判定〕 期待される水準を上回る

#### 〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度における標準修業年限内の修了率について、修士課程は91.8%から93.1%、博士後期課程は41.7%から62.2%の間を推移している。
- 平成22年度から平成26年度における学生の論文発表件数は、年度平均684件となっている。
- 平成22年度から平成26年度における学生の受賞件数は、年度平均139件となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度における修士課程修了生の就職率は、97.2%から99.4%の間を推移しており、主な就職先は鉄鋼業、造船、総合化学メーカー、自動車メーカー等となっている。
- 平成22年度から平成26年度における博士後期課程修了生の就職率は、88.0%から100.0%の間を推移している。
- 修士課程修了生の博士後期課程への進学率は、平成22年度の6.3%から平成26年度の11.8%となっている。

以上の状況等及び工学府の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 高い質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 22 年度から全専攻に外国人留学生を対象として英語のみで学位を修得できる国際コースを設置している。
- 第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）のファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施件数は年度平均 1.7 回となっており、若手教員を中心に、海外の大学において英語研修等を実施している。
- リーディングプログラム 3 件、グローバル COE プログラム、大学の世界展開力強化事業等の大型教育プロジェクトに採択されており、社会のニーズを踏まえた大学教育を展開し、リーダーとしてグローバルに活躍できる人材育成を行っている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 22 年度から平成 26 年度における学生の論文発表件数は、年度平均 684 件となっている。
- 平成 22 年度から平成 26 年度における学生の受賞件数は、年度平均 139 件となっており、平成 21 年度の 100 件から増加している。
- 平成 22 年度から平成 26 年度における修士課程修了生の就職率は 97%以上、博士後期課程修了生の就職率は 88%以上となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

## 2. 注目すべき質の向上

- 平成 22 年度から全専攻に外国人留学生を対象として英語のみで学位を修得できる国際コースを設置している。
- リーディングプログラム 3 件、グローバル COE プログラム、大学の世界展開力強化事業等の大型教育プロジェクトに採択されており、社会のニーズを踏まえた大学教育を展開し、リーダーとしてグローバルに活躍できる人材育成を行っている。
- 平成 22 年度から平成 26 年度における学生の論文発表件数は、年度平均 684 件となっている。
- 平成 22 年度から平成 26 年度における学生の受賞件数は、年度平均 139 件となっており、平成 21 年度の 100 件から増加している。